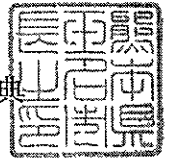


玉 土 第 4 1 4 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

玉名市長 島 津 勇 典



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

熊本県玉名市

道路の整備はほぼ進んでいるという議論が一部にあると聞くが、これは都会に云えることであり、地方では地域の振興、経済の活性化はもとより、地方に生活する者の不便さ、時には生命にかかわる事もあり、更なる道路の整備は最も住民の要望の強い喫緊の課題である。

- ①我が玉名市は新幹線開業を目前に控え、新玉名駅へのアクセス道路の整備が急がれる。
- ②合併市として各旧町から中心部へのアクセス道路の整備が合併に伴う各市町の約束事である。
- ③子供達の通学路の整備はP T A等保護者の訴えがあり、高齢者の事故多発地点等も多く、小さくても大切な事業箇所が多くある。

○現 状	○課 題
①九州新幹線新玉名駅までのアクセスの不備。 ②幹線道路から新中心部への道路整備が遅れ、1つの自治体(合併市)としての道路体系が整っていない。 ③市道等について、毎年市民より道路の新設改良や狭溢で危険な道路の拡幅・側溝整備等の要望が数多くある。財政面からそれらの要望を満たすことが出来ない状況である。 ④歩道の未設置箇所が多く、安心・安全な歩行が出来ない。	●国道208号バイパスの残り4.3kmや主要地方道路への連結道路を、新幹線開業に間に合うよう整備しなければならない。 ●財政状況の悪化により道路財源の獲得に苦慮し、整備が遅れている。 ●住民の要望に関しては順次工事等を実施しているが、要望に応えられるのは一部であり、財源不足のために要望を見送ることが多く、道路財源を確保することが最重要課題である。 ●市道及び主要地方道にしても歩道の未設置箇所が多く、子供や老人・障害者、総ての市民が安心して歩ける歩道の整備が急がれる。

②—2 地域の目指すべき将来像

熊本県玉名市

平成17年10月に一市三町が合併し、人口72,000人の新しい玉名市が誕生いたしました。

基本目標としては、まず第一に便利で快適なまちづくりを目指しています。旧市町間を結ぶ道路網の整備、子供や高齢者の安全が確保できる道路整備を進め、市民にとって安全で、高速性と連結性を満たした利便性の高い交通体系の実現に努め、生活環境の整った安全で暮らしやすい町の実現を目指します。

国道208号玉名バイパスの全線開通、交通結節点へのアクセス道路や、国道・県道の整備とともに、中心市街地を中心とする内環状線である都市計画道路と市域内幹線道路のネットワークの整備を図る。また、有明海沿岸道路(Ⅱ期)計画の熊本～大牟田間の早期着工を促進。それらの整備による定住人口の増加を図ります。

九州新幹線の全線開業により、生活圈や経済圏域の拡大が期待できます。その拠点となる新玉名駅とのアクセスや広域バス路線網の整備等、新幹線と連動した二次交通の整備を行い、新幹線開通による地域経済の拡大を図ります。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

熊本県玉名市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地方交通の快適性、利便性の向上 ・ 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	◆市道岱明玉名線 ◆地方再生整備	●一般国道501号と県道長洲玉名線を経てJR鹿児島線を高架し、一般国道208号を南北に結ぶ都市計画決定された街路である。当該箇所を整備することにより、長洲港と九州新幹線新玉名駅や、菊水IC、JR各駅などの主要な交通結節点を結ぶアクセス道路として物流及び交通の活性化に寄与するものである。 ① 観光回遊ルートの整備 玉名温泉街の雰囲気醸し出す路地や石畳、水路などの環境整備等、歩いて楽しめる温泉街の景観形成を図る。 ②新玉名駅周辺の利便性確保のために駐車場の整備や快適性とゆとりをもった環境の形成。 ③戦後の高度成長に併せ整備した道路のコンクリート橋梁は改修が必要な時期に近づいている。当然財政的にも厳しさが増していて、今後は改修するだけでなく、既設橋梁を安全で長く利用できるように長寿命化の調査管理の政策も出てきているが、これにもっと重点をおいた対策をお願いしたい。	